

ふじなわ 喜和

2022 春号 よしかず No.37
発行：ふじなわ喜和
鳥取市湖山町北4丁目812
tel&fax 0857-28-2795

とっぴり情熱かわら版

●県議会だより●



令和4年2月

定例県議会 代表質問

一 平井県政4期目の最終年度に向けて

二 新型コロナウイルス感染症の克服に向けて

三 ポストコロナを見据えた

持続可能な地域社会の実現に向けて

① 人口減少時代における持続可能な地域づくりについて

- (1) 人口減少社会における集落の存続に向けて
- (2) 生活に不可欠な地域交通の存続に向けて
- (3) ポストコロナを見据えた子育て支援策について
- (4) 人生百年時代の健康寿命の延伸に向けて
- (5) カーボンニュートラル実現に向けた取組について

② ポストコロナを見据えた観光・交流の推進について

- (1) ポストコロナを見据えた観光誘客の推進について
- (2) 山陰海岸ジオパークの振興について
- (3) 県内空港を拠点とした地域活性化について
- (4) コロナ禍を乗り越えた国際交流の再開について
- (5) 人口減少社会におけるスポーツ振興について

③ 本県産業の持続的な発展に向けて

- (1) 県内企業の存続と時代の潮流を捉えた産業振興について
- (2) 持続可能な農業の振興に向けて
- (3) 森林資源の循環的利用に向けて

④ 安心・安全な・県民生活の実現に向けて

- (1) 複合災害リスクに対抗する県民の安全確保策について
- (2) 島根原発に係る安全協定について

⑤ たくましく自立する子どもの育成に向けて

⑥ 高齢化社会における更なる交通事故防止対策について



春暖の候 皆様におかれましては御壮健のこととお慶び申し上げます。

去る三月一日定例県議会において代表質問をいたしました。この度は新型コロナウイルスの感染拡大の為、皆様には傍聴の御案内を控えましたので紙面にてご報告させていただきます。

(なお議場内は、アクリル板を設置しており、壇上ではマスクをはずしてあります。)

令和四年三月吉日

鳥取県議会議員 藤縄喜和

ロシア関連事業凍結

鳥取県 情勢緊迫で執行困難

ロシアのウクライナ侵攻に関連し、鳥取県は1日、開会中の県議会2月定例会に提案している2022年度一般会計当初予算案のうち、ロシア沿海地方との民間交流やビジネス支援など一部事業について、予算が成立しても執行を凍結する方針を決めた。緊迫する世界情勢が環日本海交流に影響を与えた形だ。

同日の本会議で平井伸治知事が明らかにした。ロシアの一部銀行が国際決済ネットワーク「国際銀行間通信協会(SWIFT)」から排除されることから、平井知事は「現状では商品が売れても代金が得られない可能性があり、ビザの発給

など人的交流も難しい」と指摘。一部事業の執行を凍結するのが「現実的な選択肢」と述べた。

一方、「事態がどう動くか分からないので予算枠は確保しておきたい」とし、問題解決後の交流再開に理解を求めた。

同予算案には、沿海地方からの柔道交流団や青少年交流団の受け入れといった文化交流事業、ロシアでの新規ビジネス創出、環日本海航路の再就航に向けた需要の掘り起こしを行うビジネス拠点化構築事業などが計上されている。

鳥取県とロシア沿海地方は1991年に友好交流に関する覚書を締結。2010年には友好交流協定を結んだ。昨年11月には平井知事がコジエミャコ・オレグ知事とオンラインで会談し、境港市とウラジオストクを結ぶ定期航路の再開に向けて取り組むことで一致したばかりだった。

(浜田匡史)



自席で追及質問をする

2022.3.2 日本海新聞

境港、米子両市の意向踏まえ判断 再稼働是非で平井知事 鳥取県の平井伸治知事は1日の県議会本会議で、中国電力島根原発2号機(松江市鹿島町)の再稼働の是非について、専門家をつくる県原子力安全顧問会議に改めて意見を求めた上で、境港、米子両市の判断や県議会の議論などを踏まえ述べた。具体的なスケジュールは明らかにしなかった。

平井知事は「広域自治体として両市の意向を最大限に尊重する」と述べ、緊急防護措置区域(UPZ)内にある両市議会で再稼働に関する考え方が整理されることが前提になるとの考えを改めて強調。スケジュールは「時期が来れば判断するがまだ見通せない。両市の判断に注目したい」と述べるにとどめた。

両市の原子力発電所環境安全対策協議会(安対協)で出た意見も参考にするとし、「顧問会議や両市の安対協の意見も踏まえ、住民の安全を第一に慎重に判断する」とした。

藤縄喜和議員(県議会自民党)の代表質問に答えた。(浜田匡史)

2022.3.2 山陰中央新報

We Love 鳥取で延長 今月末まで、県民の県内利用

鳥取県は1日、新型コロナウイルス対策で宿泊料割引などが受けられる「We Love 山陰キャンペーン」について、県民の県内施設利用を対象にした適用期間を3月末まで延長した。山陰両県が両県施設で利用できるキャンペーンの再開は、感染状況を見ながら両県で協議する。

県議会本会議で藤縄喜和議員(県議会自民党)の代表質問に答えた平井伸治知事は、宿泊施設関係者からも好評だとして「オミクロン株が長期化しそうな状況

をにらんで延長したい」と意図を明かした。

キャンペーンは対象宿泊施設で5千円を上限に料金の半額の割引が受けられる。県は、1月中旬に期間を3月10日まで延長していた。

島根県は感染状況の悪化により、1月20日から新規予約を停止、まん延防止等重点措置の適用に伴い2月1日からは既存予約分を含め停止した。重点措置の解除に合わせ、2月21日から県民の県内利用分を再開した。

(藤井俊行)

2022.3.2 朝日新聞

県の判断時期「見通せない」 知事、再稼働の是非めぐり

代表質問で県議会自民党の藤縄喜和議員が、立地自治体の松江市が再稼働への同意を表明したことを踏まえ、今後の手続きやスケジュールを尋ねた。平井知事は県としての判断にあたって、米子、境港両市の判断や住民の意見に加え、改めて原子力安全顧問ら専門家の判断も仰ぐ考えを示した。

代表質問で県議会自民党の藤縄喜和議員が、立地自治体の松江市が再稼働への同意を表明したことを踏まえ、今後の手続きやスケジュールを尋ねた。平井知事は県としての判断にあたって、米子、境港両市の判断や住民の意見に加え、改めて原子力安全顧問ら専門家の判断も仰ぐ考えを示した。

(東孝司)

再稼働 迫る

島根2号機

中国電力島根原子力発電所(松江市)の2号機再稼働の是非について、平井伸治知事は1日の県議会本会議で、「米子市、境港市の意向を最大限、尊重すべきであり、まずは両市がどういうとりまとめをするか、注目したい」と述べた。

(東孝司)

2022.3.2 日本海新聞



2022.3.2 日本海新聞

5類への引き下げ否定

平井知事「公費負担なくなる」

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを、疫学調査などが必要な「2類相当」からインフルエンザなどと同等の「5類」に引き下げるべきではないかとの議論について、鳥取県の平井伸治知事は1日の本会議で、「5類になれば治療費の公費負担がなくなる。病院に行かない人が増え、感染拡大が止められない」と述べ、現段階での引き下げの必要性を否定した。

平井知事は、新型コロナウイルスの致死率を考えるとインフルエンザと同様に扱うのは難しいと指摘。「社会経済

自席で知事の答弁を聞く

2021.10.31 日本海新聞

武良、三上選手に特別優秀選手賞

県水泳連盟 東京五輪の報告会

鳥取県水泳連盟は30日、内で開き、競泳男子平泳ぎ東京五輪の報告会を米子市の武良竜也選手（ミキハウ



特別優秀選手賞を贈られた三上選手(中央)と武良選手(右) = 30日、米子市明治町の米子ワシントンホテルプラザ

男子平泳ぎ200歳7位入賞、男子400歳メダリスト6位入賞の武良選手は「コロナ禍で支援打ち切りとなり引退も考えたが、水泳をやめなくて良かった。いろいろな方に後押ししてもらい感謝している」と笑顔で話した。

同連盟の藤縄喜和名誉会長は「二人の活躍に敬意を表する。パリでのメダルの可能性を証明した大会だった」とたたえ、表彰状を手渡した。安田コーチには特別功労賞が贈られた。

(平塚千遠)



自席で追及質問をする

報告会には三上選手を指導した安田千代樹コーチと武良選手を指導した藤森善弘コーチをはじめ、平井伸治知事や伊木隆司米子市長、同連盟関係者ら約50人が出席。板飛び込み準決勝16位の三上選手は「応援してくださった方に恩返しできていない。五輪でメダルを取って帰ってこられるよう頑張りたい」と次を見据えた。



2021.12.20 台北駐大阪経済文化弁事処 向処長が鳥取を訪問 台湾交流について意見交換

2021.6.14 日本海新聞

知事の駄じやれ 答弁に県議苦言

感染者数の語呂合わせ

23日の鳥取県議会運営委員会で、平井伸治知事の駄じやれに議員が苦言を呈した。16日の本会議での答弁で新型コロナウイルス感染者数を大阪の食品製造会社になぞらえ「(鳥根県の累計511人は)どこかで聞いた数字。大阪の豚まん屋と同じ」などと表現したことに対し、藤縄喜和県議(県議会自民党)が「感染者は死や詐傷への恐怖がある。いかなるものか」と自戒を求めた。

平井知事は16日の答弁で、鳥取、島根各県の累計感染者数がそれぞれ466人と551人で全国でも際だって少ないとした上で、鳥取県の数字については「6はシックスと読め、よろしく、仕上がっている」などと述べた。

平井知事は本紙取材に「鳥取、島根両県が仲良く数を抑えていて県民にお礼を申し上げた趣旨。必要であれば撤回した議事録の扱いもあるかもしれない。議会の判断を仰ぎたい」と話した。

(岡宏由紀)

山陰海岸ジオ推進へ要望書

3府県議連、平井知事に鳥取、兵庫、京都の3府県議会の有志議員でつくる山陰海岸ジオパーク推進3府県議員会の会(会長・藤縄喜和鳥取県議)は3日までに、ジオパーク活動の推進に関する要望書を鳥取県の平井伸治知事に提出した。2022年度の世界ジオパークネットワーク再認定審査を前に、エリア内外を結び交通アクセスの充実に取り組むよう求めた。

要望書では、日本ジオパークネットワークと連携した国内外での認知度向上、集客の見込める関西地域との交通便利性向上▽体験型イベントの開発とPR▽国連の持続可能な開発目標(SDGs)と連動した行動プログラムの作成一などに3府県が足並みをそろえて取り組むよう要望した。



平井知事(左)に要望書を手渡す藤縄会長(左から2人目)＝鳥取県庁

平井知事は「ジオパークの活用に関する思いは皆さんと一緒に。議連や関係府県と協力して課題解決に取り組んでいきたい」と答えた。

(浜田匡史)



2021.12.16 兵庫県新温泉町 山陰海岸ジオパーク館 現地調査



山陰海岸ジオパーク 玄武岩の玄さん

2021.11.4 日本海新聞

台湾とオンラインでつないで行われた決起集会



鳥取一台湾定期便化へ決起

関係者がオンラインで集会

鳥取県と台湾の相互交流の促進と両地域を結ぶ航空路線の定期便化を目指す決起集会が、鳥取と台湾をオンラインでつないで開かれた。決起集会に合わせ、台湾に関する情報を発信する成された交流団体「鳥取・台湾ファンクラブ」と台湾の旅行社などをつくる「鳥取応援団」が企画。両団体の代表らが相互交流の重要性を確認した。

鳥取と台湾の間では2019年9月12月にチャーター便が計37往復運行され、4千人以上が利用。搭乗率は9割近くに上った。

集会の鳥取会場となった鳥取砂丘コナン空港(鳥取市)には、同クラブの藤縄喜和代表ら6人が参加。藤縄代表は「定期便を就航させるため『鳥取応援団』の

台湾からオンラインで参加した鳥取応援団の林怡君事務局長は「現時点で13社が団体に加わっている。イベントやSNSで台湾での鳥取の知名度を上げてファンを増やしたい」と、定期便就航に意欲を示した。

(中村美美子)

2021.12.20 台北駐大阪経済文化弁事処 向処長が鳥取を訪問 台湾交流について意見交換